



全国医師国民健康保険組合連合会

第50回全体協議会開催

「医師国民健康保険組合に対する国庫補助金の削減法案の撤回を求めること、社会保障制度の見直しにあたって組合の健全な運営が確保されるよう、適切な制度づくり並びに財政措置を講じること」等の決議を採択

去る10月19日(金)に全国医師国民健康保険組合連合会(略称「全医連」)が、主催九州ブロック、担当福岡県医師国保組合で、福岡県福岡市「福岡市中央区:ホテルニューオータニ博多」において全国各医師国保組合の代表者など約517名が参集して開催された。

その概要を報告する。

当組合の出席役員

理事長 赤倉 昌巳 理事 中村 興治
理事 城 守 参与 千秋 亨

全医連の全体協議会は、全国を中国四国、関東甲信越、近畿、九州、中部、東北北海道(開催順序)の6ブロックに分け、ブロック持ち回りによって開催され、医師国保組合運営上の問題点などについて協議している。

会議は代表者会と全体協議会とに分かれて開催されるのが慣例となっている。

代表者会

平成23年度会計決算等を審議

—— 明年の第51回全体協議会の主催は ——

—— 中部ブロックで、開催地は富山市と決定 ——

代表者会は、昼食後12時30分から各組合の理事長(代表者)が出席し開催された。なお、当組合から赤倉昌巳理事長が出席している。

福岡県山岡晴夫常務理事が司会を担当し開会を宣した。

会議では最初に、福岡県松田峻一良理事長から主催ブロックを代表しての挨拶と、全医連の日野副会長(宮城県理事長)から所用により欠席された妹尾淑郎会長(愛知県理事長)の挨拶については、全体協議会の席上にて代読することが申し入れられた。

この後、平成23年10月以降、新たに組合理事長に就任された理事長11名(土川伍朗岩手県理事長、小野自仙福島県理事長、鈴木弘祐千葉県理事長、関隆



主催ブロック代表挨拶の福岡県松田峻一良理事長

教長野県理事長、近藤邦夫石川県理事長、松本純一三重県理事長、立入克敏京都府理事長、谷澤義弘兵庫県理事長、平松恵一広島県理事長、小田悦郎山口県理事長、岡林弘毅高知県理事長)の紹介があった。

続いて、議長には慣例により、担当組合の福岡県松田峻一良理事長を議長に選出し議事に入り、平成23年度全医連事業報告および歳入歳出決算の承認、平成23年度監査報告、全体協議会の運営等が原案どおり承認された。

また、今回も決議を行うこととなり、九州ブロックで協議した決議の文案が発表され承認となり、政治的流動化に対してこの決議文の提出先および文言の訂正については全医連理事会・九州ブロックに一任することが承認された。

なお、明年の全医連次期全体協議会の開催地についても協議され、持ち回りにより主催当番は中部ブロック、担当組合は富山県医師国保組合と決定され、富山県の福田孜理事長から挨拶がなされた。

その他、京都府立入克敏理事長から提出された資料で、11月に全国一斉に実施される柔道整復療養費の患者調査後の対象者全員に対してのお礼と「医業類似行為」について周知願う文章についての説明がなされた。



全医連会長挨拶を代読される日野副会長



議長団

全体協議会

協議事項、決議など原案どおり承認

午後1時30分から全体協議会が開催され、福岡県山岡春夫常務理事が司会を担当し、大分県嶋津義久理事長が第50回全体協議会の開会を宣した。

最初に福岡県松田峻一良理事長から主催ブロックを代表しての挨拶と、全医連の日野泰彦副会長（宮城県理事長）から欠席された妹尾淑郎会長（愛知県理事長）の挨拶の代読があった。

次に、日本医師会横倉義武会長、福岡県小川洋知事、福岡市高島宗一郎市長（代理、渡邊正光副市長）、全国国民健康保険組合協会阿部正俊会長（代理、中村嘉昭常務理事）、福岡県国民健康保険団体連合会安丸国勝理事長の各氏から来賓として祝辞があり、来賓者の日本医師会羽生田俊副会長の紹介が司会者から行われた。

次に、議長団に九州ブロックの各組合の理事長8名が選出され、議長には慣例により、担当組合の福岡県松田峻一良理事長が選任され議事が進められた。

*代表者会の結果報告および承認事項

- (1) 平成23年度全国医師国民健康保険組合連合会事業報告および歳入歳出決算の承認について
- (2) 平成23年度監査報告について
- (3) 平成24年度全国医師国民健康保険組合連合会事業計画および歳入歳出予算の承認について
- (4) 平成24年度会費および徴収方法の承認について
- (5) 選出役員の承認について
- (6) 次期全体協議会の開催地について

*次期全体協議会開催地理事長挨拶

最初に福岡県松田峻一良理事長から代表者会の「全体協議会の運営について」等の結果報告が行われた。

次いで、上記の(1)(3)(4)および(5)について一括して、

全医連（庶務担当）豊田紘生理事（大阪府副理事長）から、続いて(2)の監査報告が全医連篠原彰監事（静岡県常務理事）から資料に基づき説明報告があり、原案どおり承認された。

なお、(5)「選出役員の承認について」各ブロック選出理事の組合役員の辞任等に伴う理事3名の選出は次のように承認された。

○辞任理事

- 前田浩之理事（兵庫県医師国保組合副理事長）
- 木下敬介理事（山口県医師国保組合理事長）
- 福田 稔理事（熊本県医師国保組合理事長）

○新任理事

- 岡本重一理事（兵庫県医師国保組合副理事長）
- 小田悦郎理事（山口県医師国保組合理事長）
- 秦喜八郎理事（宮崎県医師国保組合理事長）

また、任期満了に伴う監事1名の選出についても次のように承認された。

○辞任監事

- 酒本将稔監事（奈良県医師国保組合常務理事）

○新任監事

- 篠原 彰監事（静岡県医師国保組合常務理事）

さらに(6)の次期全体協議会の開催地について福岡県松田峻一良理事長から報告が行われ、原案どおり承認された。

この後、全医連次期「全体協議会」の開催地に決定された中部ブロックの富山県医師国保組合福田孜理事長から挨拶が行われた。

なお、次期「第51回全体協議会」の開催日等については、懇親会場における福田孜理事長の挨拶時に「平成25年10月18日（金）富山市：ANAクラウンプラザホテルで開催される予定である」旨の発表があった。

*決議

福岡県連沢浩明常務理事が決議文を朗読し、原案どおり採択され、取扱いについては、全医連理事会・九州ブロックに一任することが承認された。

次いで、講演が次の演題により行われた。



講演の横倉義武日本医師会長



特別講演の鳥越俊太郎氏

*** 講演**

座 長：福岡県医師国民健康保険組合
常務理事 蓮沢 浩明

演 題：『日本医師会の医療政策について』

講 師：日本医師会

会 長 横倉 義武

この後、福岡県山岡春夫常務理事から閉会の言葉があり、引き続き、特別講演が次の演題により行われた。

*** 特別講演**

座 長：福岡県医師国民健康保険組合
理事長 松田 峻一良

演 題：『早期発見

－「シグナル」を見逃すな！－』

講 師：ジャーナリスト 鳥越 俊太郎

以上で全医連の第50回全体協議会は無事終了した。

決 議

医師国民健康保険組合は、設立から半世紀の長きに亘り、国民皆保険制度を支える重要な役割を担ってきた。
また、組合員は、地域住民の健康を守るという責務を果たすとともに、相互扶助精神と強い連帯意識による高い保険料収納率を上げ、自家診療における保険請求を自粛するなどの自助努力を重ね健全な運営に努めてきた。
しかし、近年の急激な高齢化や景気低迷に加え、後期高齢者支援金等の支出の増加が財政を圧迫し、組合運営は極めて厳しい状況にある。
現在、政府は、「社会保障・税一体改革」、「マイナンバーの導入」、「後期高齢者医療制度の廃止」等、社会保障関連の政策を推し進めようとしている。
その一環として、国民健康保険組合に対する国庫補助金の見直しが検討され、国庫補助金定率分の廃止を含む法案の国会への上程が強行されようとしている。
国民健康保険組合は、制度上、市町村国民健康保険と同じ位置づけにあり、一定の補助があつて然るべきである。医療保険制度を無視した一方的な国庫補助金の削減は、更なる組合財政の悪化を招き、解散に追い込まれる事態になりかねない。
よって、本協議会は、こうした現状に強い危機意識を持ち、喫緊の課題について慎重に審議した結果、左記事項のとおり決議する。

記

一、医師国民健康保険組合に対する国庫補助金削減法案を撤回すること。
一、社会保障制度の見直しにあたっては、医師国民健康保険組合の健全な運営が確保されるよう、適切な制度づくり並びに財政措置を講じること。

平成二十四年十月十九日

全国医師国民健康保険組合連合会
第五十回全体協議会